

**2/15**  
2009 No.238  
特別定価 **550**  
yen

# pen

with New Attitude



日本初のクリエイティブ・ディレクター  
**千利休の功罪。**

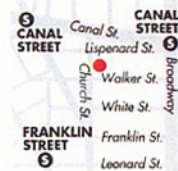




## NYの深夜族が注目する、マカオ風レストラン

工場のように無機質な外観に、看板もなし……。まるでマフィアの隠れ家のようなだが、一歩足を踏み入れるとそこは別世界。古きよき時代の「マカオ」の盛り場を彷彿とさせる、エキゾチックなインテリアが広がっている。ここは、昨年末の開店早々、ニューヨークの心をつかんだレストラン、「マカオ・トレディング・コー」だ。

ポルトガルの植民地として半世紀栄え、10年前に中国に返還されたマカオの歴史を生かし、店のコンセプトは「同じ素材を使って中華風とポルトガル風の2種類の料理を出す」というもの。ステーキなら中華風がオイスターソース炒め、ポルトガル風がバターソテーに、ブルーチーズソースをかけるなど本格的な2つの味わいが楽しめる。深夜営業のバーも併設されているため、秘密のたまり場につってつだけだ。



**Macao Trading Co.**  
 ● 311 Church Street  
 ☎ 212-431-8750  
 ◎ CANAL STREET  
 ☎ レストラン: 17時~24時  
 ☎ バー: 17時~早朝4時  
 無休  
 www.macaonyc.com



入り口のすぐ脇には、長いカウンターバーが。



ダイニングの壁にはマカオの賭博場にあったルーレットなどが飾られている。



右: スティック春巻8ドル。ソースの容器には、灰皿を使用。左: ポルトガル風の黒ステーキ26ドル



## 裏情報 ニューヨーク



ジェイビエラック・写真 photographs by Jay Bierack  
 矢吹恭子・文 text by Kyoko Yanuki  
**\*Penは月2回刊、1日と15日発売。**



左: 店内の棚には、クッションがびっしりと詰まっている。インテリア小物として、絶大な人気を誇っている。下: デザイナーのトーマス・ポール。



## 部屋の模様替えに、自然モチーフのクッションを。

クッションの、デザイン王、トーマス・ポールがついに店をオープン。カラフルに塗られた店内には、ハイセンスかつモダンなデザインのクッションが所狭しと並んでいる。自然にインスパイアされた作品は、80種類を超えている。

この店、もともとは20年前からある「バステック」という名のブティック。1840年代に作られたロフトスペースで、天井が高いのが自慢だ。オーナーがポールの友人で、店の半分をシェアするかたちで開業と相成った。「一人で店を出すのは難しいけれど、やっと念願の店が出せたよ」とポール。顧客も「色や素材の質感はウェブで見てもわからない。手にとって選べるのうれしい」と大喜び。クッション以外にも生地、皿、鞆まで揃うので、部屋の模様替えを思案中ならぜひ!



クッションの素材はコットンからシルクまでさまざま。サイズは18インチと22インチ四方の2サイズで、値段は50~120ドルまでの幅広い価格帯だ。



**Thomas Paul**  
 ● 459 Broome Street  
 ☎ 212-625-3565  
 ◎ SPRING STREET  
 ☎ 12時~19時(月~土)  
 13時~18時(日)  
 祝

## 男たちの駆け込み寺、「サイキック」とは!?

不景気で不安が募るこの「時勢に」、NYの男たちがこぞって足を運ぶ場所、それが「サイキック(霊視)」。この道20年のキャリアを誇るロクサーヌは、警察の殺人事件捜査の手伝いにも従事する凄腕だ。

彼女のもとには、「このところビジネスマンの依頼が急増。「いまの会社にいつ解雇されるか?」一株を手放したほうがいいか?」などの景気に関する質問をされるという。不安な男たちは妻に相談するわけにもいかず、霊視による正確な答えを求めに来るのだ。

「私自身が答えるのではなく、私は彼らの守護天使の答えを聞くだけ」とロクサーヌは語るが、大手企業のCEOまでもが、彼女に経営に関するアドバイスをもらいに来るという。株も銀行も信じられない昨今では、サイキックもすがりたくなる気持ちにも納得だ。



上: 霊能者のロクサーヌ。霊視の料金は1時間125ドルという。☎ 212-588-1797 右: 霊視には本人の持ち物を使う。



右: 手の甲を見ても霊視。中: 指輪など、肌身離さず身につけているものを持参。左: スピリチュアルな雰囲気漂う部屋。